



## ROTARY BRINGS HOPE

ロータリーは希望をもたらす

M.A.T.

M. A. T. カバラス

1986—87年度 R. I 会長

### 事務所

海南市日方1294 海南商工会議所内

TEL (07348) 3-0800

### 例会日

毎週月曜日 12時30分

♣オ1例会のみ 18時30分

於海南商工会議所4F

会長 追田博司 幹事 山野 明

会報委員会 ◎深谷 ○上中・田村

田中・橋本・早川

## ROTARY BRINGS HOPE



# Kainan East Rotary

DISTRICT 264

CLUB WEEKLY BULLETIN

才 568 回 例 会 昭和62年3月16日(月) 午後12時30分  
於 海南商工会議所

1. 開 会 点 鐘 追田博司 会長
2. ロータリーソング 「それこそロータリー」
3. ゲスト紹介 元野上町教育委員  
野上町々史編さん委員 森本喜代一氏
4. ビジター紹介 栗栖弘光様(岩出RC)  
東義行様 広二郎様 塩崎順弘様  
門脇孝文様(海南RC)
5. 出席率の報告 会員総数 65名 出席者数 48名  
出席率 75%  
前回修正出席率 85.94%
6. 会長スピーチ 追田博司 会長

皆さん今日は。ゲストの森本先生、今日はお世話になります。ビジターの皆様ご苦労さまでございます。さわやかな天気となりまして、奈良のお水取りも、昨日で終わったのでございます。18日は、彼岸の入りで、もう本格的な春になります。昨日も良い天気だったので、藤白山の方へ散歩に行っておきました。田圃にはレンゲの花が、ちらほらと咲いて居りました。桜前線も、もう箕島あたり迄来ているようです。白浜も、染い吉野が咲いたと云う事です。我々も、さわやかな気分で、奉仕活動に励んで頂きたいと思っております。この後、森本先生のお話がございますので、ごゆるりとお聞き下さいませ。では、これで終わります。

7. 幹事報告 山野 明幹事
  - メーキャップ 山東剛一君(3/11 海南RC)
  - 例会臨時変更のお知らせ  
和歌山中RC 3月27日(金) → 3月27日(金)  
PM 6:30 ~ 紀三井寺講堂  
和歌山東南RC 3月28日(土) → 3月28日(土)  
PM 6:30 ~ 紀三井寺棧敷  
有田RC 4月2日(木) → 4月2日(木)  
PM 6:00 ~
  - 認証状伝達式のご案内  
堺泉ヶ丘RC 5月19日(火)  
ホテル ニューオータニ大阪
  - 3月28日(土) ココ周辺で、ポリオプラスの募金も行いますので、ご協力お願い致します。

## 8. ゲスト卓話 森本喜代一先生

今日は、野上八幡宮に関する私のささやかな体験を、お話いたしたいと思えます。結論から先に云いますと、人生には必ずサイコロを振る時が、3回あります。その3回のサイコロを、どのようにして擲んでいくか。そのサイコロの擲み方によって、幸福ともなり、不幸ともなっていくと云う体験であります。又、物を成功させる為には、3つの条件があると云う事でございます。その条件とは、ひとつには、執念であり、執念を焼やす事です。その上、執念があっても、時と所を得なかったならば、物事が成功しないと云う事。さらに、執念をもやしても、それを支えていくものが無ければ、成功しないと云う。この3つの条件でございませう。そう云ったささやかな体験をお話いたします。

それは、昭和2年迄は、野上八幡宮に、二重塔がございました。現在は、奈良県吉野の東南院と云うお寺にございますが、この塔が昭和2年に、松永伊助氏によって買い取られ、和歌山の六三園の庭の置物とされて居りましたが、その後、この塔が昭和12に、次代の松永氏によって、「1万円で売る」との新聞公報を見て、東南院住職は、すぐさま松永宅を訪ね、塔を譲り受けるべく相談申し上げた訳でございませう。後日、松永氏と塔の買い受け条件として、3月と9月に分けて代金支払いの契約をした。その日、何と云う因縁か。大東亜戦争が勃発、それからと云うもの戦争の激化と不況の為に、塔の支払契約も完納ならず 住職は1,500円を持って、契約違反のお詫びと、塔のおことわりを兼ねて、松永宅を訪問した所、松永氏いわく、「その1,500円だけでよい。残金8,500円は、ポー引きで結構です」と申され、さらに驚いた事に、塔に祭る御本尊までも、塔の為に寄贈なされ、松永氏のこの気持に、住職は涙、涙の感謝で一杯でした。住職は、この時松永氏のご信仰の篤さと、松永氏に教えられた無縁墓地の掃除のご利益のお蔭をもって、この塔を譲り受けられた訳でございませう。この東南院が、とんとんと、うまく行って居るのは、野上の八幡さんが、この塔を手放してくれた事と、松永氏のご厚意をもって、ここにお移り下さった心根を考えた時に、私達は、この塔を拝がまずには居られないのです。いわゆるその支えが、感謝と云う気持のみでございませう。この事が、松永氏が譲って下さったと云うその有難さが、支えの心であるとするならば、住職が執念を燃やして、その執念が、塔がさらに時と場所を得たのです。庭の置物でなく、寺の中に、しかも皆んなから拝められるのです。

さらに、後を継ぐ人が、感謝の気持をもって、それを支えて居る。このことを私もささやかな体験として、心を温めて居る次第です。

## ニコニコ・米山・BOX

三木寛昭君 長い間休みました

丸畑邦夫君 今日は、森本先生に卓話をお願いしました

橋本憲紹君 “ ”

宇恵弘純君 “ ”

西川富雄君 どうも、有難うございました